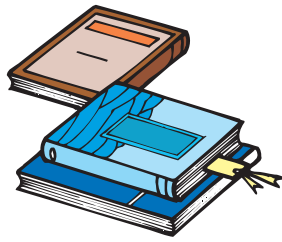


# ほんの森

図書館 ☎84-3311



図書館休館日

9月2日(火) 毎週月曜日

## 日曜映画会

### 『ぼくらの裁判員物語』

と き 9月21日(日)  
午前10時・午後2時  
上映時間 22分  
ところ ハイビジョンホール  
定員 各回 先着100名  
※整理券は不要です



## 金曜映画会

### 『マグニチュード』

と き 9月26日(金)  
午後2時から  
上映時間 1時間30分  
ところ ハイビジョンホール  
定員 先着100名  
※整理券は不要です

# 文芸

## ◆俳句

菩提寺の百段上る大暑かな 池田 逸子  
点点と四葩明りや日本寺 伊藤 敬子  
祭行き耳に残りし笛微か 今関満喜子  
露草の青を溶かして空を塗る 魚地 照子  
瑠璃とかげ草の光となりけり 江森 悦子  
学園や青葉茂れる元兵舎 大木 素風  
土用鰻産地確かむ老眼鏡 川島 孝夫  
あじさいの咲き疲れけり庭の隅 川島 通則  
赤んぼの肌にも似たり百日紅 桑名 大行  
五合目の山塊黒し夏の富士 向後 寛  
瓜なすび供えて迎ふ魂まつり 越川せつ子  
夕暮や三段飛びの青蛙 小松 藤男  
仏壇へ狭庭の枇杷の房一つ 佐瀬 輝夫  
水音に山の冷気の集まれり 椎名万里子

犬吠の涼風ぬける車窓かな 宍倉 道子  
幼なじみの人にも出逢ふ暮参りかな 玉虫 栗扇  
三文の徳と言ふ母朝涼し 土屋 義昭

山法師ゲートボール場の辺に咲きて 吉岡 信子  
恙無かれと見守りくるる 北海道に育ちし母の自慢せし 層雲峡吾に迫りく 田崎 尚美

戸を繰れば中庭長き蛇の衣 戸村 静華

深ぶかと咎むす間を八ヶ岳の 女取り湧水送りゆく 佐瀬 初音

ふるさとや村の校庭百日紅 長谷川正子

秘色の花卉重ねし睡蓮に 秘密めきたる黄の蕊のあり 八角 三枝

瘦せたねと鏡が笑ふ大暑かな 布施 和代

聴診器あてられる犬を抱へつつ 思はず吾は大きく息吸ふ 西山満里子

昨日聞きし今日は聞へぬ秋の蟬 山口 一秋

里の秋一緒に唱ひし遠き日の 友の行方を折ふし思ふ 芹川 初子

力士等の粋な姿の藍浴衣 山口 とし

今更と言ひつつ老父は出掛けゆく テーブルマナーの講習会に 島田ますみ

あと五分静かにしてろ行々子 渡部 和秋

けさ上りし平目の刺身食べよちふ 皿に透きつつはつか彩ふを 齊藤つね子

◆短歌

農政の貧困言わずいそいそと 出穂田見回る夫の横顔 越川 義則

観光のバスより眺む木更津の 青葉清しき馬來田の嶺 鈴木まさ子

共通の話題なければ黙しいる庭の 黄百合の七つ開きぬ 高梨 キヨ

子も孫も羨隠元に飽きしとふ 趣向を変へてサラダ造らむ 青木 秀子

汗だくになりて帰りし夫の顔 眼だけが光る夏帽の中 土屋 好

野の道に青き薄の擦れあへる 葉音聞きつつ散歩してあつ 押尾 輝子

共通の話題なければ黙しいる庭の 黄百合の七つ開きぬ 高梨 キヨ

趣向を変へてサラダ造らむ 青木 秀子

汗だくになりて帰りし夫の顔 眼だけが光る夏帽の中 土屋 好

野の道に青き薄の擦れあへる 葉音聞きつつ散歩してあつ 押尾 輝子

共通の話題なければ黙しいる庭の 黄百合の七つ開きぬ 高梨 キヨ

子も孫も羨隠元に飽きしとふ 趣向を変へてサラダ造らむ 青木 秀子

汗だくになりて帰りし夫の顔 眼だけが光る夏帽の中 土屋 好